

## 超精密機器の国際輸送拠点として充実する田野浦地区 大型精密機器専用船（RORO船）が初入港

北九州市門司区に物流センターを所有する物流事業者「キャリムエンジニアリング株式会社（本社：東京）」が、半導体製造装置など超精密機器の輸出に対応するため改装工事を行っていた大型RORO船を、北九州港へ就航（初寄港）させることとなった。

同社は、北九州港を拠点に、世界初の「精密機器専用船」を自社で運航し、従来の海上コンテナ輸送に比べ、梱包資材を大幅に削減し、安全性が向上した特殊車輛による超精密機器等の海外向け一貫輸送システムを確立している。この画期的なシステムは、荷主である精密機械装置メーカーの高い評価を得ている。

今回、中近東などへの輸出に対応するため、新たに大型RORO船を就航させた。

今後も同社は、北九州港を拠点として、海外向けの超精密機器を中心とした輸出を行う予定である。

### 記

#### 1 大型RORO船の歓迎行事

1) 日 時 平成23年 1月19日（水） 14時  
着岸予定 1月19日（水） 12時  
離岸予定 1月20日（木） 11時

2) 場 所 門司区田野浦4号岸壁「FORE SIGHTER」船内  
歓迎行事を取材される場合は、事前に門司税関に申請（氏名・所属・生年月日、使用車両の車種・ナンバー等）が必要です。  
お手数ですが、1月18日（火）17時まで物流振興課までご連絡ください。

3) 歓迎行事 歓迎の挨拶、入港記念の盾贈呈（港湾空港局）  
花束贈呈（北九州港振興協会ポートアテンダント）

4) 入港船舶 船 名 「FORE SIGHTER（フォアサイタ）」  
船舶明細 全長178m、38,062総トン、幅 29m  
積載能力 13mシャーシで200台

#### 2 事業者

##### 1) キャリムエンジニアリング株式会社（代表取締役 草野 勝晴）

昭和54年（1979）設立。本社は東京都江東区新木場。自社で精密機器専用船を運航し、工場出荷から現地工場搬入・据え付け・組み立てまで一貫受託するサービスを開発し、「超精密機器の国際輸送業界」のトップブランドとしての地位を確立している。

## 2) 地元代理店等

船舶代理店・港運事業者（船内・沿岸作業） 門司港運株式会社

## 3 全国第2位の精密機器輸出の拠点“北九州港”取扱量シェアで17.4%

財務省の貿易統計によると、平成22年11月までの半導体等製造装置輸出の取扱実績で、17.4%（23,413トン）輸出額としては1,220億円を誇る超精密機器輸出の国内有数の拠点となっている。

精密機器運搬船入港実績・半導体製造装置等輸出実績（出典：財務省貿易統計）

	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年 11月まで
北九州寄港数	1	23	50	18	60隻
全国シェア		8.0% (4位)	12.5% (3位)	11.9% (3位)	17.4% (2位)

## 3 北九州港との関係

平成19年に北九州市門司区に2.7haの物流センターを設け、平成20年11月には高機能倉庫（クリーンルーム/528㎡×1室、792㎡×1室）を整備した。

当初、西日本地区の拠点として計画した門司トータル・ロジスティクス・センター（以下門司TLC）であるが、東アジアに近い地理的優位性、優先的に利用できる岸壁を有する、北九州港の豊富なフェリー・RORO船航路利用することで、東日本地区の貨物も効率的に集めることが出来ることから、全日本の基幹センターとして、北九州市にある門司TLCの整備を積極的に進めてきた。

## 4 今後の計画

今年度も、新しいプロジェクトに向けて、自社の敷地内に約6,600㎡の屋根付き車庫の整備などを計画している。

- 1) 工期 平成23年1月着工、3月竣工の予定
- 2) 仕様 W110m×L60m×H10m、鉄骨造、平屋
- 3) 目的 新規施設の完成により、精度の高い温度管理・品質維持、雨天時に於ける作業の効率化と大型船への荷扱いの短縮が図れる。

## 5 運航船舶

船名	仕様	総トン数	全長(m)	積載量 (13mシャーシ換算)
ASIA ACE		13,493	146	60台
ASIA INNOVATOR		15,380	151	61台
FORESIGHTER		38,062	178	200台



世界初の「精密機器専用船」



船内での厳重なラッシング

## 門司区田野浦の物流センター

利用岸壁

